

## 【鍋島賞（最優秀演題賞）】

### 篠原 陸斗

北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室  
市立釧路総合病院精神神経科

#### 研究課題、タイトル

Acute inflammation induced by ultra-low dose lipopolysaccharide and restraint stress improve positive symptom-like behavior in a mouse model of schizophrenia by different mechanisms

#### コメント

北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室に所属し、現在は市立釧路総合病院精神神経科で勤務しております篠原陸斗と申します。この度、第8回アジア神経精神薬理学会（AsCNP 2023）に参加し、上記演題に対してJSNP Excellent Presentation Award for AsCNPおよび鍋島賞をいただきました。今回、このような大変名誉ある賞をいただき大変光栄に思います。日本神経精神薬理学会、アジア神経精神薬理学会の先生方、スタッフ関係者の皆様に深く感謝いたします。

私はモデルマウスを用いて、統合失調症と脳内炎症の関係性を検討しております。本演題は、急性炎症が陽性症状様行動を改善し、さらにその機序は炎症の誘発因によって異なることを示したものです。in vivo microdialysis法を用いて線条体ドパミン量を測定し、炎症の誘発因によるドパミンへの影響の違いを示した部分が本研究のハイライトとなっております。本研究結果は、炎症は統合失調症に悪影響をもたらすという従来の脳内炎症仮説と相反するものとなりました。この点について、精神科医の視点から考察を加えると、実臨床において「統合失調症患者において、急性感染症等の一過性の急性炎症が幻覚妄想といった陽性症状を改善することがある」という事象を反映するものだと考えております。今後さらなる研究を重ねて、より強固な知見を積み重ねてゆきたいと思っております。

今大会は中国の西安にて開催されたこともあり、多くの参加者にとってVISA取得や現地での移動など不安要素が多かったものと推察されます。臨床医としても研究者としてもキャリアが浅い私が、今回このような素晴らしい賞をいただけた理由としては、共同研究者の先生方のお力添えに加えて、不慣れな土地に单身飛び込む蛮勇を評価していただいたのだと勝手に解釈しております。今後とも"Life is going into unknown."の精神で研究活動を継続して参りたいと思っております。

最後になりましたが、私が楽しく基礎研究を行うことを献身的にサポートしてくださっている当教室助教の石川修平先生、とにかく基礎研究がやりたいと無茶を言う医学生時代の私を医局に誘っていただき、さらに日々暖かい目で見守ってくださっております当教室教授の久住一郎先生、ならびに共同研究者の皆様にも深く感謝申し上げます。最高のチームワークをだすと自負しておりますので、ぜひ今後の活躍で恩返ししたいと思います。



## 興津 雅人

東京都立神経病院脳神経内科

### 研究課題、タイトル

Dopamine dysregulation syndrome-like behavior in bilateral dorsal striatum 6-hydroxydopamine lesioned Parkinson's disease model mice

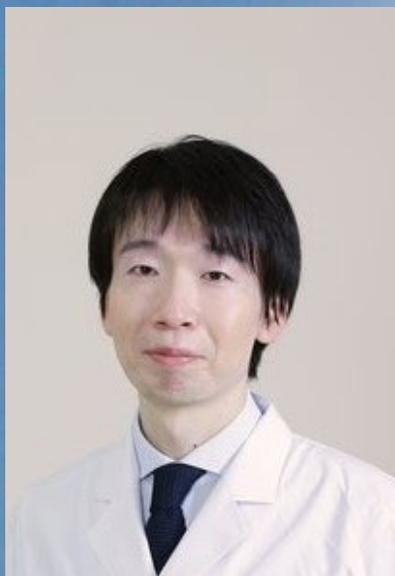
### コメント

2023年9月22日から24日、中華人民共和国西安で開催された第8回アジア神経精神薬理学会(8th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology: AsCNP 2023)に現地参加致しました。近年、新型コロナウイルス感染症流行のためオンライン学会開催が主流となっていた中で、私としては初めて国際学会に現地参加させて頂く貴重な機会になりました。海外参加者のプレゼンテーションを直接拝聴できるのももちろんのこと、大会期間中には現地で日本国内からの他の参加者とも交流を深めることができ、非常に有意義な学会になりました。

今回私は、国内留学で基礎研究に従事させて頂いている東京都医学総合研究所依存性物質プロジェクトにおいて行っているParkinson病の精神症状に関する研究の中で、ドパミン補充療法への渴望、過剰使用を来すdopamine dysregulation syndrome(DDS)のモデルマウスに関する研究演題を発表致しました。

これまで臨床医として経験を積む中で、医学基礎研究に関する知見が不足していると感じ、同施設で基礎研究に取り組む機会を頂きました。ほとんどゼロからのスタートの中、丁寧かつ熱心な御指導を頂いた東京都医学総合研究所の皆様、またこのような機会を提供すべくご配慮頂いた東京都立神経病院の皆様の御尽力のおかげで、学会発表できるような研究成果に至ることができたと感じております。またその研究成果に対し、日本神経精神薬理学会よりJSNP Excellent Presentation Award for AsCNP2023という大変荣誉ある賞を頂いたことは感無量です。この場を借りて関係の方々に深くお礼申し上げます。

末筆になりますが本学会の運営・開催に御尽力頂いた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も臨床・研究活動に邁進していく所存でございます。



## 山田 悠至

国立精神・神経医療研究センター病院 司法精神診療部

### 研究課題、タイトル

---

Efficacy and sex difference of multi-session transcranial direct current stimulation on social cognition in schizophrenia: A pilot study

### コメント

---

国立精神・神経医療研究センター病院司法精神診療部の山田悠至と申します。この度は、JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP2023という大変素晴らしい賞を頂き、心より御礼申し上げます。対象演題は2023年9月22～24日に中国の西安にて開催されましたAsCNP2023（第8回アジア神経精神薬理学会）において発表をさせて頂きました。発表内容は「統合失調症の方の社会復帰に大きく影響する社会認知機能障害を、左上側頭溝/回への経頭蓋直流刺激が改善し、その効果量は男性より女性の方が大きい可能性が確認された」こととなります。

今回の研究は、国立精神・神経医療研究センターの住吉太幹先生にご指導を頂き、特定臨床研究として実施をさせて頂きました。また、初めて訪れる西安の地では池田和隆先生、新田淳美先生、吾郷由希夫先生をはじめ多くの先生方に親身なご指導を賜り大変貴重な時間を過ごさせて頂きました。重ねて御礼申し上げます。今後とも、臨床現場で活用できる研究成果を目指し、日本神経精神薬理学会において勉強をさせて頂けることを心より楽しみにしております。引き続きご指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 森屋 由紀

東京都医学総合研究所精神行動医学研究分野・依存性物質プロジェクト

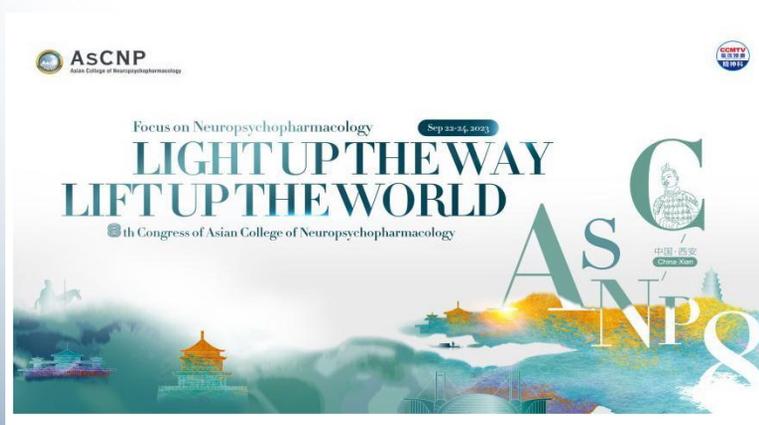
### 研究課題、タイトル

Additive Effects of  $\delta$  Opioid Receptor Activation and  $\mu$  Opioid Receptor Knockout in Reducing Hopelessness

### コメント

この度、2022年9月22日から24日にハイブリッドで開催されました8th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacologyに参加させて頂きました。私はこれまで、性差の観点からオピオイド受容体とストレスに注目して基礎研究を進めてきました。ポスター発表では臨床研究・基礎研究から多岐にわたるテーマでの発表が行われ、げっ歯類を用いたうつ病に関する演題も多数あり、大変勉強になりました。

今回、日本神経精神薬理学会よりJSNP Excellent Presentation Award for AsCNP2023を受賞することができ、大変嬉しく存じます。この場をお借りして、日頃よりお世話になっております共同研究者の先生方や学会関係者の皆様に深く御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後の神経精神薬理領域の発展に貢献できますよう研究を進めて参ります。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。





## 陳 文兵

富山大学医学薬学研究部薬物治療学研究室

### 研究課題、タイトル

Knockdown of Teneurin-4 in the nucleus accumbens attenuates dopamine release induced by methamphetamine in mice

### コメント

この度、2023年9月22日から23日に開催されました第9回アジア神経精神薬理学会（9th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology：AsCNP）に参加いたしました。本大会はCOVID19後、初のAsCNPオフラインミーティングでした。会期中には基礎・臨床の各領域における最新知見を勉強させていただきました。また、私は今回が初めての国際学会への参加であったため、最先端の研究を行っていらっしゃる諸先輩研究者方から多くの刺激を得ることができました。教授と一緒に会議に参加でき、古都西安の風景を堪能できたことを嬉しく思います。

今回の受賞は、日々私の研究活動を指導してくださった研究室の先生方や同僚の方々、そして学会主催者の方々のご指導とご協力の賜物です。この場をお借りして、皆様に心から感謝の意を表したいと思います。今回の受賞を励みに、今後も神経精神薬理学分野の発展に貢献できるよう精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

私の研究は薬物依存の新たな治療標的に関するもので、そこに興味があります。今回の学会では、先生方の研究にも刺激を受けました。今後は他の研究者ともより交流を深めたいと思っています。

## 徳竹 伯洸

富山大学医学薬学教育部薬科学専攻薬物治療学研究室

### 研究課題、タイトル

The involvement of cannabinoid type 1 receptors of the basolateral amygdala on the anxiolytic-like behavior and place preference in mice

### コメント

この度は、2023年 9月に開催された8th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacologyに参加・発表を行わせていただきました。この発表に対し、JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP2023をという大変栄誉のある賞をいただくことができ、大変光栄に思います。この場をお借りして、選考委員の先生方および学会関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

今回、現地で初めてAsCNPに参加し著名な先生方の講演を聞く中で最先端の研究を知ることができ、大変貴重な機会となりました。

私は、「大麻による精神障害の機序解明および治療ターゲットの探索」を目的とし、研究を行ってきました。大麻は、脳に作用し、依存症や精神疾患様症状を引き起こすことが報告されています。そのターゲットとしてカンナビノイド1型受容体に着目し、研究を行っております。現在、大麻の乱用が大きな社会問題となっておりますが、私は、研究者として、科学的な知見に基づき、大麻の危険性を正確に発信していくと共に、今回の研究発表が、大麻使用障害の病態解明や治療法の発見、創薬に繋がればと考えております。

今回の受賞を励みに、さらに研究を進め、神経精神薬理学の発展に貢献できるよう精進して参ります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。